

9回裏、八学光星・小池の本塁打に沸き立つ応援団



## 「よくやった」 準V光星へ やまぬ拍手

「最後まで、よくやってくれた」。青森山田との接戦の末、惜しくも敗れた八学光星ナイン。学校関係者や家族らが詰めかけたスタンドからは、選手たちをたたえる声はやまなかった。

1-1で迎えた六回表、先発の成田太一選手がスクイズ処理で交錯し負傷退場。重苦しいムードが漂った。1点を失い動揺が走った

が「まだ大丈夫」「さっと取り返してくれ」と懸命に声援を送った。その裏、馬場文治選手の犠飛で1点を返すと「よし、追いついた」と、拍手と歓声に包まれた。

3点を追う九回裏は総立ちに。4番小池智也選手が意地の本塁打を放つと、歓喜の声が響き渡った。

小池選手と中軸を担った3番小淵智輝選手は母江美子さん(47)

「東京都」は試合後「息子は『甲子園の経験がある自分と小池がチームを引っ張っていかねければ』と意気込んでいたのに残念」と目を押しさえたが「(県大会は)本当に楽しませてもらい、親孝行してもらった」と、息子の成長ぶりに誇らしかった。

2003年夏に甲子園の土を踏み、ベスト8に進出したOBの永田准士さん(32)「鶴田町」は、あと一歩のところまで夢舞台を逃した先輩たちを見送り「よく頑張ってくれた。3年間お疲れさまと言いたい」と、ねぎらった。

(三浦康平)